

科目名	母性看護方法Ⅱ (マタニティサイクル各期の看護) Maternity Nursing II		担当教員 (研究室番号)	大平 肇子 (104) 岩田 朋美 (101) 永見 桂子 (102) 市川 陽子 (105)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	大平:motoko.oohira@mcn.ac.jp 岩田:tomomi.iwata@mcn.ac.jp 永見:keiko.nagami@mcn.ac.jp 市川:yoko.ichikawa@mcn.ac.jp					
履修年次	3年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	必修	単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	科目等履修生	否
											オープンクラス	否
科目目的	マタニティサイクルにある女性の健康を支援するために、妊娠期、分娩期、産褥期および新生児期における対象の健康の保持増進、疾病の予防、健康への回復過程について看護の目的・方法を修得する。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
	関連するDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。(知識・理解) H 人々の健康に関する課題の解決に向けて、安心・安全・安楽・自立を基本とした看護を実践する技能を身につけている。(技能・表現)										
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥各期および新生児期の生理的特徴や経過判断に必要な情報について理解と各期の適切なアセスメントができる。 2. 妊娠・分娩・産褥各期および新生児期のニーズ・健康問題の評価ができ、支援の方向性について理解し、支援技術について実施することができる											
成績評価方法(基準)	筆記試験(70%)、演習課題(30%)											
再試験の有無と基準等	有:不合格者全員を再試験受験資格者とする。再試験は筆記試験のみで評価する。											
教科書	系統的看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 医学書院											
参考書等	必要時、紹介します。											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業は、事例を用いながら、妊産褥婦および新生児をできるだけイメージでき、看護について考えられるように実施します。主体的・積極的な取り組みを期待します。また、自己学習は必須であり、母性看護に必要な知識と基本的な母性看護援助技術の修得に努力してください。											
備考												
回	学習項目	学習内容							主担当教員	授業方法		
1回	授業の進め方 母性看護学における看護過程 妊婦の看護①	・母性看護方法Ⅱの授業の進め方(母性看護方法Ⅱの概要) ・母性看護方法Ⅱの学習方法 ・母性看護学における看護過程の考え方 ・妊婦の身体的、心理・社会的特徴を理解する							大平	講義		
2回	妊婦の看護②	・妊婦・胎児の健康状態をアセスメントし、妊婦・胎児および家族の健康生活を支援するために必要な看護方法について学ぶ。 ・ハイリスクな状態にある妊婦の特徴と看護方法について学ぶ。							大平	講義		
3回	産婦の看護①	・産婦の身体的、心理・社会的特徴を理解し、産婦の健康状態をアセスメントし、分娩進行に応じて産婦とその家族を支援するために必要な看護方法について学ぶ。 ・帝王切開術を受ける産婦の看護方法について学ぶ。							岩田	講義		
4回	褥婦の看護①	・褥婦の身体的、心理・社会的特徴を理解し、褥婦の健康状態をアセスメントし、褥婦および家族の健康生活を支援するために必要な看護方法について学ぶ。							大平	講義		
5回	褥婦の看護②	・ハイリスクな状態にある褥婦の特徴と看護方法について学ぶ。 ・帝王切開術後の褥婦への看護方法について学ぶ。 ・産褥期の母子の看護過程の展開:全体像のとらえ方							大平	講義		
6回	新生児の看護①	・新生児の身体的、心理・社会的特徴を理解し、新生児の健康状態をアセスメントし、胎外生活への適応促進のための看護方法について学ぶ。							岩田	講義		
7回	新生児の看護②	・ハイリスクな状態にある新生児の特徴と看護について学ぶ。							岩田	講義		
8回	母性看護における看護過程①	・事例についての情報の整理 ・全体像の理解(関連図の作成)							大平	演習		
9回	母性看護に必要な看護支援の実践①	・事例に基づき、母子の看護に必要な基本的援助技術1)~6)をグループごとに実施し、評価する。 1) 妊婦の診察 2) 妊婦体験・ケア 3) 褥婦の健康診査 4) 母乳育児支援 5) 新生児の全身状態の観察 6) 新生児の清潔援助							岩田他	演習		
10回	母性看護に必要な看護支援の実践②	・事例に基づき、母子の看護に必要な基本的援助技術1)~6)をグループごとに実施し、評価する。 1) 妊婦の診察 2) 妊婦体験・ケア 3) 褥婦の健康診査 4) 母乳育児支援 5) 新生児の全身状態の観察 6) 新生児の清潔援助							岩田他	演習		

回	学習項目	学習内容	主担当 教員	授業 方法
11回	母性看護に必要な看護支援の実践③	・事例に基づき、母子の看護に必要な基本的援助技術 1)～6)をグループごとに実施し、評価する。 1) 妊婦の診察 2) 妊婦体験・ケア 3) 褥婦の健康診査 4) 母乳育児支援 5) 新生児の全身状態の観察 6) 新生児の清潔援助	岩田他	演習
12回	母性看護に必要な看護支援の実践④	・事例に基づき、母子の看護に必要な基本的援助技術 1)～6)をグループごとに実施し、評価する。 1) 妊婦の診察 2) 妊婦体験・ケア 3) 褥婦の健康診査 4) 母乳育児支援 5) 新生児の全身状態の観察 6) 新生児の清潔援助	岩田他	演習
13回	母性看護における看護過程②	・事例についての看護過程の展開 ・看護上の課題の抽出、目標の設定 ・具体策の立案 ・実施した内容について看護記録の作成（演習時の情報を使用）	大平	演習
14回	母性看護に必要な看護支援の実践⑤	・産褥期の看護(具体策の演習) 看護過程で立案したCPの実施 (リラクゼーション等のケア)	岩田	演習
15回	周産期看護の実際とまとめ	・看護過程の発表 ・周産期における母性の特性を理解し、より実践的な看護 支援について考える。	大平	演習

学 習 課 題

2回目課題（事前） 妊婦の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。

3回目課題（事前） 産婦の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。

4・5回目課題（事前） 褥婦の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。

6・7回目課題（事前） 新生児の看護について教科書等を参考にしながら、自己学習する。

8・13・15回課題（事前） グループで看護過程を検討できるよう自己学習をする。

9～12回目課題（事前） 以下の1)～6)の援助技術を3項目（1項目約60分）ずつ実施するので、1)～6)の援助技術実施にあたって必要な内容を自己学習する。

- | | |
|----------------|-------------|
| 1) 妊婦診察 | 2) 妊婦体験・ケア |
| 3) 褥婦の健康診査 | 4) 母乳育児支援 |
| 5) 新生児の全身状態の観察 | 6) 新生児の清潔援助 |

9～12回目課題（事後） 実施した1)～6)の演習記録を、指定の期日までに提出する。

※上記の演習課題の記録用紙が提出されたことが前提で、記述内容を評価する（30％）。

実務経験を活かした教育の取組

・担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。